
「ドラゴンクライシス！」

コアス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

「ドラゴンクライシス！」

【Nコード】

N4591Q

【作者名】

コアス

【あらすじ】

「ドラゴンクライシス！」のドリームノベルです！

EP1「始まりのロストプレシャス」（前書き）

お久しぶりの人もはじめましての方もこんにちははコアスです。
誰も書いていなかったようなので書かせて頂きましたw

EP1「始まりのロストプレシャス」

「山奥山頂付近」

「依頼主が指定したのはここだよな？なんでこんな山奥なんかに？」

「・・・」

俺は西園鷹也。高二だ。裏の顔は遺物へロストプレシャス、専門の運び屋だ。

「こちらです」

「うむ確かに」

「あなたさまも大変でございますでしょう？」

「いえ、俺がやりたくてやっていることですから」

「そうですか。報酬は振り込んでおきま・・・ウグ！？・・・」
ドン！

「なっ！？・・・」

依頼主が狙撃された。

「チイ！何者だあ！？」

護身用のツインガトリングガンをぶっ放す。

「ターゲット確認！この戦いに必然性はない・・・」

「グハ！？・・・」

「撤退！撤退！」

敵は撤退したようだ。

「大丈夫ですか！？」

「ウウ・・・私のことはいい・・・カハッ！？・・・はやくそのロストプレシャスを・・・ファングの手に渡る前に・・・」

「なんだと！？」

聞いたことがある。ロストプレシャスを悪用しようとする悪徳企業のことか。

「あ・・・後報酬は私のポケットのクレ力で・・・」

「！・・・ってそういうわけにはいきませんね」

「瞬キュピーン 思考となつた俺だが急いで病院へそして・・・

「君がコイツのことをここまで運んできてくれたのかね？」

「ええそうですが・・・」

「申し遅れました。私こういう者です」

名刺を受け取り俺は驚愕する。

「世界遺物保護協会、ソサエティだと！？・・・」

「ああ、いえいえ私達は君を捕まえたなんてこと考えてないですよ。ただ、城樹が持ち出して君に預けたロストプレシヤスのことについてお礼を言いたくてね」

ソサエティ所属研究員の戸倉さんの言葉にホッと安心する。

「ところで君は中身を見たのかね？」

「いえ、ファングの襲撃をうけたもので・・・」

「なんなら是非見せて差し上げましょうかな？」

「ええ、是非！」

ついでにSかAクラスのロストプレシヤスを下さい。

「それ差しあげましょうか？」

あ、心の声が漏れていたようだ。

「君の遺物使いハブレイカーレベルはいくらなのかな？」

戸倉さんが聞いてくる。顔近いつて！

「え、一応レベル6です」

「そうですか？フムフム・・・」

そして第二特別研究室へと案内され・・・

「では、ご開帳！」

「これは！・・・卵？・・・」

紫色と緑色、金色の三種類がアタッシュケースに収められている。

「Sクラスのロストプレシヤスですよ」

「一体何の卵なんですか？」

「ドラゴンの卵なんですよ！」

「！？ドラゴンだと・・・！？」

「ええ、ダークドラゴン、グリーンドラゴン、ゴールドドラゴンの

です！」

「凄い！・・・」

そこのAロストプレシャスの比じゃない。

「もしかして欲しいとでも言うのですか？」

また俺の心の声が「以下略」

「なんなら一つ差し上げましょうかな？」

「え！？本当ですか！？」

「竜司君の例のこともありますしサンプルという名目で・・・」

「誰なんですか？ソイツ」

「ああ、レッドドラゴンの契約者ですよ世にも珍しい」

「・・・」

戸倉さんの目は物凄く輝いていた。

続

EP1「始まりのロストプレシャス」（後書き）

次回、どの卵を選ぶ？そして・・・

EP? 「出会いの選択と」 (前書き)

お待たせ致しました！

EP? 「出会いの選択と」

（翌日）

「・・・うーむどうしようか?・・・」

俺は昨日三色種ドラゴンの卵を一時受け取ったまではいいのだが・

・悩んでいた。

ひどうせなら全部育てたいのだが・・・

戸倉さんが「一体だけをお願いしますよ」とかちよいとふざけたことをぬかしたのでボコボコにしようと思ったが馬鹿らしいのでやめといた。

「あー・・・マジかよー・・・」

結局決めていないためにまだケースから出してはいない。

「そうだ！ルーレットで決めるか！」

えらくいい加減だがそれでもいいか・・・。

「さあ!・・・」

そして決めようとしたその時・・・

ドガガガッ！ドガッ！ガッ！ドガシャーン！

「!?!くう・・・何者だあ!?!」

「僕の名はオニクス、ブラックドラゴンさ。そしてこれは・・・
彼、オニクスが付けてるバッジを見て俺は気付いた。

「!?!ファングの一員か!?!」

「ほおう・・・、君みたいな坊やがファングの事を知っているとは
これは驚いたねえ・・・」

「俺は一般人じゃねえさ。それで・・・俺になに用だ!?!」

「分かっているだろう。その三つの卵全部こっちによこしな！」

「！やはりか！貴様がファングと分かったからには余計に渡すわけ
にはいかねえなあ！」

「フン、そういうと多少は思ったよ。残念だなあ・・・ならばこ
で死ね！」

ヒュイン！

「くう！？・・・」

凄まじい猛攻撃をまともに喰らってしまった。

「クソ！・・・これでもか！」

言い忘れていたが、俺はもう一つ戸倉さんからAクラスのロストブレシヤス「想眼の鉦」を受け取っていた。効果は不明らしいが・・・

「！ぬうん！」

「ガハア！？・・・」

「そんなものか。グッ！？・・・なんだこの激痛は！？」

オニクス自信も足にダメージを受け、押さえ込む。

「どうやら急所に当たってくれたようだな・・・」

「貴様！・・・もう我慢ならない！」

ボゴオツ！

「死ねえ！」

オニクスは本気怒全開パワーを出してきた。

このままではマズイ・・・もう迷っている時間はない・・・。

「うおおおおおー！！！」

俺は猛ダッシュで卵に向かう。

「！させるかあ！」

ブウン！それに気付いたオニクスも追撃してくる。

「こっちもそうはさせないさ！さあ、ゼロ、今こそ教えてくれ・・・

俺の未来を！・・・」

俺も鉦をオニクスに投げ、目を閉じたまま卵に触れた。すると・・・ピカッ！

「・・・おおっ！・・・」

ビキビキ！

「・・・」

どうやらダークドラゴンのようだ。

綺麗な紫の髪そして瞳、そして手にはドラゴンの証である龍紋が刻まれた美少女が誕生した。

「まさか・・・コイツも!?!?・・・」

「・・・エンゲージ!・・・」x2

「そんなの認めない!消えてくれ!」

「うおおおおおおおー!!!」

キュシーン!

「うぐわあー!?!?・・・だが僕は・・・」

「しまった!」

なんとかゴールドドラゴンの卵は守ったがグリーンドラゴンのは奴等に奪われてしまった。

「あばよ人間風情が!」

オニキスは風に紛れて姿を消した。

「ちくしょう!・・・」

「・・・」

続

EP? 「出会いの選択と」 (後書き)

次回、本当の戦いはここから幕を開ける！
P・S感想、評価どうぞです！

EP? 「壊れゆく日常」 (前書き)

ふと思ったこと。

戸倉さんの存在感ありすぎw戦闘員よりも強い研究員ってw・・

EP? 「壊れゆく日常」

～ 翌日、ソサエティーロビーにて～

「……そうですね……またファングの連中に……」

「ええ……スイマセン……」

「で……どうしたんですその頬の跡は？」

「話すと長くなりますが・・・」

「ああ、別に構わないですよ。竜司君達が来るまでにまだまだ時間がありますから」

「はあ・・・」

回想

「……イテテ……あんにやろう……俺のミスか!……」
昨夜フアングのブラックドラゴン、オニキスと名乗る奴の襲撃を受け、卵を一つ奴等に強奪されてしまった。土壇場でエンゲージしようとして竜の固有結界を解いてしまった結果だろう。

「……あー胸クソ悪いー少し寝よう……」

そうしてベッドルームに入った途端……

「
・
・
・
!
!
!
?
・
・
・
」

$$\begin{array}{c} \lceil \\ Z \\ / \\ / \\ / \\ \cdot \\ \cdot \\ \cdot \\ \cdot \\ \cdot \\ \lfloor \end{array}$$
$$\begin{array}{c} \lceil \\ \bullet \\ \bullet \\ \bullet \\ / \\ / \\ / \\ \lfloor \end{array}$$

なんと部屋に二人の美少女がいた。一人は寝てるし、もう一人はあさくつて着替えの途中だったようだ。ハッ！？この状況はかなりマズイ！・・・

「あ・・・あの？・・・／／／」

「……いつまで……人の着替え見てんのよ！」

鉄拳が飛んでくる。

「ぎゃー!?」

!

俺の悲鳴で目が覚めてしまったようだ。

「……………」

「え？……ング！？………」

「あー！？」

俺に近付いてきていきなり唇を重ねてきた。

ちよw

「……人の妹になにしてんのよー！？」

「のおおおおおおー！？落ち着けてそれは勝手にむこうが……
ってアレ？さっきまでの痛みが……消えた！？……それに包帯は……」

「なんだ……治癒魔法だったのね……そ……その……包帯
私が巻いてあげといたのよ……悪い？」

「い……いやそんなことは……」

彼女は赤面していた。

「……服早く着たら？」

「……はやく出てけえー！」

「のおおおおー！？」

く戻って

「……というわけです……」

「本当に長かったですねー……それより貴方なにか大事な事見
落としてませんか？」

「……あ！そういえば……」

急いで手の甲を見る。なんと両手に契約の紋章が。

「貴方は二体のダードラゴンとエンゲージしてるんですよ！」

「そうか！」

「これは今までまたとない例のない結果ですよー！一つの卵から
双子が生まれ、人の契約者がいるなんてのは。これは学会で発表し
なければ……」

戸倉さんは物凄く目を輝かせていた。

「おっとスキャンが終わりましたよ。ブレイカーレベルが1上がっ
てます！」

「え!?!」

「これは推測なんです、恐らくドラゴンとエンゲージしたからでしょう」

「.....それにしてもなあ.....」

「フン!」

彼女はそっぽを向くばかりだった。

続

EP? 「壊れゆく日常」 (後書き)

名前は次回で! (多分)

EP? 「鼓動」 (前書き)

お待たせしました!

EP? 「鼓動」

「お！来たようですね竜司君達が」

「！」

「きゃは！」

「戸倉さんいますか？」

「ええ、お待ちしておりますよ。竜司君、絵里子さん、ローズちゃん」

「お話ってなんでしょう？」

「ええ、実は紹介したいブレイカーがいます」

「ども！レベル7ブレイカー、西園鷹也です宜しく」

「レベル7！？って私がこの間までのじゃない！」

「へー・・・僕は如月竜司こっちはレッドドラゴンのローズ」

「ローズだよ！」

「実は彼はダークドラゴンとエンゲージしてしましてそれも二人なんですよ！」

「え！？」

「ああ、名前まだ付けてなかったな。うーむ・・・リミとリルカだ」

「・・・／／／」

「リミ？」

「うっさい！／／・・・」

「あら・・・」

「姉のほうに懷かれてないなんて・・・」

「皆さん計測始めますよ」

「・・・」

「しゃあね・・・リルカ、一緒にしようか？」

「うん」

「エンゲージ」

「ローズこっちもしよ」

「うん分かったよ。リュウジ」

「エンゲージ……」

すると突然……

「出遅れたあー……」

「ビアンカ！？どこから出てきたのよアンタは！？」

「新たなブレイカーがいると聞いてちや黙ってられないのがこの僕ビアンカ・A♡アレックスサンドラ♡ルーさ！ さあ、君調べさせてくれ！」

「うわー！？w」

この後酷い目に逢ったのはいうまでもない。

続

EP? 「鼓動」 (後書き)

次回、大バトルの予感!?

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4591q/>

「ドラゴンクライシス！」

2011年2月18日10時30分発行